

## （様式6-A） A. 雑誌発表論文による学位申請の場合

細川 高史 氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題 目 Relationship between hand dominance and treatment outcomes for distal radius fractures in the elderly in the short-term  
 （高齢者の橈骨遠位端骨折における利き手と短期治療成績との関係について）  
 Journal of Hand Surgery Global Online 2:212-216, 2020  
 Takafumi Hosokawa, Tsuyoshi Tajika, Morimichi Suto, Hirotaka Chikuda

## 論文の要旨及び判定理由

本研究では、65歳以上の高齢者の橈骨遠位端骨折患者に対する短期治療成績と利き手の関係について検討した。

65歳以上の橈骨遠位端骨折患者101名を対象に、受傷側に基づき利き手群と非利き手群にわけ、さらにそれぞれを手術治療、保存治療と計4群にわけ、後ろ向きに調査し比較検討した。3か月後の調査において、利き手受傷患者では、手術治療のほうが保存治療よりも握力が7kg大きかった。一方、非利き手受傷患者では手術治療と保存治療の間に機能的な有意差は認めなかった。

高齢者橈骨遠位端骨折の治療成績において、利き手と治療法の関連を示す報告は今までになく、高齢者の利き手に対する手術治療は早期に握力を回復させるという新規性のある報告であることを認められ、博士（医学）の学位に値するものと判定した。

（令和3年6月23日）

## 審査委員

主査	群馬大学教授（医学系研究科） 救急医学分野担任	大嶋 清宏	印
副査	群馬大学教授（医学系研究科） リハビリテーション医学分野担任	和田 直樹	印
副査	群馬大学教授（医学系研究科） 公衆衛生学分野担任	浜崎 景	印